

平成30年度 第1回行政評価委員会 議事録要旨

日 時	平成30年6月25日（月）午後3時30分から午後5時まで	
場 所	市役所 本庁舎 災害対策本部室	
出席者	委 員	横山幸司委員長 齊藤由里恵副委員長 磯貝禎之委員、岩井洋二委員、篠田遼一委員、松岡万里子委員
	事務局	副市長、企画部長、行革・政策監、経営管理課長、 経営管理係長、経営管理係担当
次 第	1 辞令交付 2 市民憲章唱和 3 市長あいさつ 4 委員の自己紹介 5 委員長及び副委員長の選任について 6 委員長あいさつ 7 議題 (1) 平成30年度公開行政レビューについて (2) 平成30年度公開行政レビューの事業選定について 8 その他	

- 1 辞令交付
- 2 市民憲章唱和
- 3 市長あいさつ
- 4 委員の自己紹介
- 5 委員長及び副委員長の選任について
- 6 委員長あいさつ
- 7 議題
 - (1) 平成30年度公開行政レビューについて
(事務局説明)

- ・委員長

当日の進め方など、例年、少しずつ改良を加えながら実施しているところです。

- ・委員

内容は分かっているつもりです。私も昔は公務員でいろいろなことを言われる立場でしたので、よく存じ上げていますが、安城は開かれた街だと思っています。

- ・委員長

何かご質問はありますか。

- ・委員

模擬レビューの評価結果について、何かインパクトがあるものではないと考えてよろしいでしょうか。

- ・事務局

模擬レビューでいただいたご意見は、改善の視点で参考にさせていただきますが、正式な評価結果として行政評価報告書に反映されるものではありません。

- ・委員長

市民評価員説明会や模擬レビューにおいて、我々委員も含め、最終チェックを行い、進め方等を習得して本番に臨みたいと思います。細かい点については、またその時々にご意見、ご質問をいただきたいと思います。

(2) 平成30年度公開行政レビューの事業選定について

(事務局説明)

- ・委員長

本番と模擬の4事業を選んでいただきます。逆を言えば、この場で2事業を取り上げないという判断をしていくこととなります。最終的には多数決で決めていきたいと思いますが、まずは各事業の概要についてご質問がありましたら、ご発言いただきたいと思います。

- ・委員

資料5にある事業について、この事業をすることによって一体幾らのコストインパクトがあって、何がどう変わるのかが書かれていないのですが、これは意図的に書いていないのか、それともスペースの都合で書いていないのかどちらですか。

- ・委員長

資料5は事業選定用のシートですのでコスト等の記載がないのですが、本番はそういった情報の記載もある評価シートで行います。

- ・委員

説明を聞いている限り、拡充したい、あるいは減らしたいということは概ね伝わってきたのですが、記載してある文言だけで判断するのはリスクがあるので、

数字などを見せてもらって、議論のテーブルに載せる価値があるかないかを話し合うべきだと思うのですが。

・委員長

そうですね。本当はそこまでの資料を出せば良いのですが、この時点でそこまでの準備はできないということもあり、まずはこの区分によって事業を選定していくやり方を採っています。事業決定後は、そうした具体的なバックデータも含めた資料が出てくるということです。

・委員

来年度以降は、是正してください。

あともう1点、ふるさと納税制度ですが、返礼品のアイデアの意見聴取は本番で市民の皆様の意見を吸収したいのか、それとも本番までの委員会等でアイデアを聞きたいのか、どちらですか。

・事務局

ふるさと納税制度については、安城市が考えた返礼品の案についてご意見をいただくことに加えて、私どもが思い浮かばないような面白いアイデアがあれば、お聞きしたいというものです。

・委員

要するに我々委員の中から意見を出してほしいという意味ではなくて、市民の皆様のアイデアを反映させることもできるというサジェスションの一面があるということですね。

・事務局

はい。

・委員長

本番の市民評価員を交えた議論の中でそういうご意見もお聞きしたいということですね。ただし、それが目的になってしまうと、公開行政レビュー（行政評価）ではなくなってしまいますので、注意が必要だと思います。

・委員

取組としては良いと思いますが、本番でアイデア出しを行ったら、議論が破綻すると思うので、やり方は考えなければいけないと思います。

・委員長

そうですね。実際にふるさと納税制度が選ばれた場合、論点は考えなければいけないと思います。

- ・委員

消防団応援事業について、質問させていただきます。論点にある公共施設の利用券の配布など、福利厚生事業を拡充したいというのは配布人数が10人だったものを15人に増やしたいというようなことを意味していると捉えてよいのでしょうか。

- ・事務局

今やっている事業以外の応援項目を増やしたいというものです。

- ・委員

それは、市内の公共施設だけですか。

- ・事務局

現在、考えているのは市内の公共施設についてのみです。

- ・委員長

消防団についての議論はもっと抜本的に、そもそも制度そのものが必要かという深い議論が必要になってくるかもしれないですね。消防団員は必要ということ为前提として福利厚生事業をどうしようというのは議論を矮小化するかもしれないですね。担当課の思いであれば仕方ないのですが。

- ・委員

町内会長の立場で発言させていただきますと、消防団員を集めるのは非常に大変で、分団長と私で何軒も頼みに行くのですが、なかなか入ってくださらないという現状がございます。皆さん、防災の必要性を叫んでおられますし、今までの地震災害時に消防団が非常に役に立ったことは頭で理解できていると思いますが、他方で消防団に入ると大変というイメージを強く持たれています。

市内公共施設の利用券の配布ぐらいで本当に良いのでしょうか。常々、もっと消防団の意義を市民の皆様にも周知し、ご協力いただけるような体制が取れないのかということは考えております。そういう観点で、消防団のあり方も含めて、ご意見をいただけるのであればとよいと思います。

- ・委員長

消防団応援事業を取り上げると、インセンティブの多寡よりも消防団をどうするかを問われるような厳しいものになることが大いに予想されますので、それだけの覚悟をもって出さないといけないですね。

- ・委員

少し本質から外れる質問になりますが、消防団応援事業の割引サービスなど福

利厚生事業を増加させることによって消防団員がどれだけ増えるというエビデンスがあって、この事業を選ぶとそういった数値データが示されるということでしょうか。

- ・事務局

申しわけありませんが、そこまでのデータはありません。

- ・委員

消防団員への福利厚生事業を増加させることにより消防団員が増えるというエビデンスがないのに、議論のテーブルに上がってくること自体が理解できないのですが、そこを説明していただけますか。

- ・事務局

消防団応援事業では様々な福利厚生事業、例えばデンパークの入園券のほか、市内にあるマーメイドパレスとスポーツセンターのジムの利用券をお配りしております。過去には、消防団の活動劇を観劇していただくようなことも行っておりました。その狙いは、ご本人もさることながら、奥様やお子様の理解なしには活動ができないということで、むしろ奥様、お子様の理解を得るためにこのような福利厚生事業を拡充してきた経緯があります。また、消防団員は総務省の基準等もあり、年間数万円程度の報酬しかもらえていないことから、何らかの形で補完したいという思いもあって福利厚生事業をやっているのが現状でございます。もし選定されれば、そのあたりも含めてご意見をいただきたいと思っております。

- ・委員

おっしゃられたことは事実だと思いますけれども、例えばこれまでに配布した割引サービスの利用率をトレースできるようにしておけば、利用率が何%で、それを増やしたことでどうなったかのデータが取れたはずですが、実施されていないのですか。

- ・事務局

利用率については数字を取っておりますが、ご指摘いただきましたように、福利厚生事業を増加させることにより消防団員がどれだけ増えるかというところまで検討できていない状況です。

- ・委員

わかりました。

- ・委員長

その他はいかがですか。

- ・委員

昨年度の選定より詳細なデータが少ないような気がするので、どう判断するべきか迷うように感じます。

英語指導助手活用事業は新学習指導要領の完全実施に向けて段階的に小学校の授業が増加していくということですが、そもそも予算をこれ以上増やせないから、中学校に行くべき先生を削減して小学校へ充てるとなると、それで本当に良いのかという根本的な問題に行き当たります。今、いただいている資料だとよく分からないというか、漠然とした感じがします。

- ・委員長

英語指導助手活用事業は教育政策の根幹に関わるものであり、教育委員会の審議会等でお話をいただくべき事柄だと考えます。行革の観点からだけでは評価できないと思います。公開行政レビューの候補事業は全事務事業が対象になりますが、特に市民公開型の事業仕分けとなると、諮ることがふさわしい事業かはよくよく判断する必要があると思います。行政評価の外部評価に値するものが公開行政レビューになりますが、そこに諮ることができるものには限界があります。広く一般市民の目から見て、これは無駄ではないのか、あるいはしがりみがあるとといった行革の観点から判断できるものを対象事業として選定せざるを得ません。

もう一つ申し上げると、食育推進事業や消費相談事業は現時点の記載では「どうぞおやりください」といったもので、論点にならない。事業を推進するにあたり「何が問題で今後どう改革していきたいのか」を広く市民に問うということ論点にしないと議論に発展がありません。担当課にはそのあたりも踏まえて、論点を考えていただきたいと思います。そして、委員の皆様にはそういった面も含めて対象事業が適切か、議論に発展性があるかという観点から選定していただきたいと思います。

- ・委員

過去の委員会では、現時点でここまで熱い議論をしたことはないと記憶しています。事業選定の流れにもあるように、「市民の皆様のお聞きしたい事業、PRしたい事業」という目的もあるので、私はそういう観点から考えればよいと思ってましたし、本番に向けて、細かい議論をしていくと考えていたのですが。

- ・委員長

もちろんそういった面もありますが、最終的には何かしらの判定をしなければいけません。公開行政レビューには広報広聴の面もある訳ですが、原点は行政評

価であるということを前提として、担当課には論点を出していただきたい。何も腹案を持たずに、どうですかという場ではないということは改めてお願いしたいと思います。

- ・委員

今の情報だけでは選定しにくいと各委員も思っているように思います。可能であれば、もう少し丁寧な資料を出していただき、委員長が選定していただくことはできるのでしょうか。私たち委員が再度集まる時間はないので、この事業は外せないというものがあれば、それぞれ事務局にお伝えいただいた上で、委員長にある程度お任せできればと思います。次回までに勉強もできると思いますし、いかがでしょうか。

- ・委員長

どうでしょうか。例えば、事務局でもう少し情報を付加して、各委員にメール等でお配りいただき、多数決を行った上で、最終的には私と事務局で判断するというような手法を採るのはいかがでしょうか。今日この場で多数決を採ると言われてもなかなか難しいということですよ。

- ・委員

今の判断基準で言えば、私は3（消防団応援事業）と6（英語指導助手活用事業）はレビューに適さないと思います。これらの事業を議論する場合、前提部分が難しく、ぐるぐる回って結論が見えなくなることを心配します。例えば、2（ふるさと納税制度）の「返礼品アイデアについてもお聞きしたい」という投げかけは短い質疑の中では難しく、この論点の出し方には問題があると思います。ただ、一市民の単なるおばちゃん意見で盛り上がるのは1（広報あんじょう発行事業）、2（ふるさと納税制度）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）だと思います。

- ・委員長

各委員に今のようなご意見を一通り伺っていきましょう。

- ・委員

私は2（ふるさと納税制度）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）、6（英語指導助手活用事業）がいいと思います。6（英語指導助手活用事業）は小さいお子様から大きいお子様を持つ親が皆一様に興味があるテーマで、議論が発展しやすいと思うからです。2（ふるさと納税制度）はストーリー性を考えなければいけないと思いますが、予算の規模が大きいことから議論の余地があると思います。4（食育推進事業）、5（消費相談事業）はどういうプレゼンテーションをさ

れるかによって決まると思います。

・委員

私は2（ふるさと納税制度）、3（消防団応援事業）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）がいいと思います。6（英語指導助手活用事業）は委員長もおっしゃられたように、違う場で議論すればいいように思います。各事業の現状について知りたいですし、その事業に対する市の考え方を表に出してほしいと思います。

2（ふるさと納税制度）、3（消防団応援事業）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）は考え方をしっかり持っていないと、ただやるだけになってしまうと思います。

・委員

私は1（広報あんじょう発行事業）、2（ふるさと納税制度）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）を取り上げていただきたいと思います。3（消防団応援事業）は先ほど申し上げましたように、効果的な応援方法というよりは根本的な消防団の在り方についてやっていただきたいので、省いていただきたいと思います。6（英語指導助手活用事業）も予算を増加すれば十分やれるという単純な意見になるかと思います。中学校の教員分を差し引いて小学校に振り充てるというより人数増やせばいいだけだと思います。それを言って欲しいがためにここに上げたということも考えられますが、それは外していただきたいと思います。

・委員長

6（英語指導助手活用事業）は教育的な見地からご判断いただきたいですよ。

・委員

4（食育推進事業）、5（消費相談事業）はやってもらっていいと思います。反対意見もなく、現状維持という結果しかないように思いますが、真新しい意見をもらうという観点ではいいと思います。

私は以外にも3（消防団応援事業）もいいと思います。各地で消防団員の確保には苦慮していて、何でもいからやらないと消防団員が集まらないという必死な事務局側の状況は伝わってきた面がありますので、問題提起というのか、現状を市民の皆様に周知するのはいいと思いました。

2（ふるさと納税制度）はそもそも論みたいなところがあるので、そういう面では難しいと思います。ただし、「返礼品などに特化して多く寄附を集める」という目的にすれば、やりやすいと思います。あと、1（広報あんじょう発行事業）も比較的やりやすいと思います。

・委員長

委員の皆様のご意見を多数決してみますと、多かったのは4（食育推進事業）、5（消費相談事業）で、その次は1（広報あんじょう発行事業）、2（ふるさと納税制度）ですね。

3（消防団応援事業）、6（英語指導助手活用事業）は賛否が分かれましてね。2（ふるさと納税）も委員からご指摘があったように、議論があまり返礼品に矮小化するのとは問題だと思いますね。

本番は4（食育推進事業）、5（消費相談事業）は決定で、1（広報あんじょう発行事業）か2（ふるさと納税制度）を本番か模擬に振り分ける感じですね。

・委員

4（食育推進事業）を挙げましたが、事業の効果が数値で表せないのであれば、議論できない。委員長のお話しにあったようにやりやすさを考えると、1（広報あんじょう発行事業）は見直しに対する説明は必要なものの、議論はしやすい。

4（食育推進事業）は説得させるだけのデータを表すことができる自信がおりであればいいと思いますが、ただやりたいというのでしたら違うと思います。

・委員長

事務局、何かお答えはありますか。

・事務局

そういったデータはありません。

・委員

食育とか教育、生涯学習全般は事業を打って即結果が出るものと、数値化できないものがあると思います。食育もまさにそれで、食べて翌日から元気になるとか即効果が出るものではなく、数値化するのは難しいと思います。そのなかで安城市民の今後親となる世代に、10年前に聞いたみたいなのような奥ゆかしいものが生涯学習という範囲で、食育というジャンルであるとするなら、議論は「どうすれば食育を安城市の皆さんに広く、いろんな世代に広めていけるか」というもので、とても楽しい議論で夢もあると思います。ただ、効果がみえてくるのは10年後になるので効果測定は難しいのですが、現在、健幸を唱える安城市としてはこの部分は広めていきたい事業かと推し量ることができます。また、安城市の政策とマッチしているので話題にしやすいという気がいたします。

・委員長

各委員がおっしゃられた意見は両方ありますね。全てを数値で測ることは行政

評価ではなかなか難しいわけですが、何らかの政策の成果を示す必要はありますので、何を成果として示すかという議論は必要です。

例えば、農務課が食育の所管課ですが、教育委員会、あるいは貧困児童の観点で子育て支援課、その他にも福祉分野もかかわってくると思いますので、農務課だけの問題ではないですよ。広い視点で議論を深めていくという論点にすれば、私は議論の余地があると思います。これを狭い範囲で、農務課所管の食育計画をどうするのかという観点にしてしまうと議論が矮小化すると思います。そういう観点で食育推進事業や消費相談事業ももう一回論点を考え直して提出していただければ、十分議論ができると思います。

それでは、委員の皆様のご意向をお聞きしまして、事業候補は1（広報あんじょう発行事業）、2（ふるさと納税制度）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）にしたいと思います。模擬はいかがでしょうか。模擬は練習のようなもので、市民の皆さんの前で議論するには至らないものの、内部で議論するにはよいかというものです。広報あんじょう発行事業は昨年度も事業選定に上がっていたように思うのですが、ちなみに昨年度の模擬はどういった事業でしたか。

・事務局

昨年度も広報あんじょう発行事業は本番事業の候補に上がっていましたが、最終の選考まで行って別の事業が選ばれました。なお、昨年度の模擬は「あんくるバス利用促進事業」です。

・委員長

広報あんじょう発行事業は昨年度は外れたのです。1（広報あんじょう発行事業）か2（ふるさと納税制度）、模擬はどちらがいいという意見はありますか。

・委員

1（広報あんじょう発行事業）はどなたでも参加できて、意見を言いやすいと考えられますので模擬に推薦したいと思います。そうすると、模擬の進め方もうまくいくと思います。

・委員長

1（広報あんじょう発行事業）はわかりやすいですね。2（ふるさと納税制度）は少し難しいかもしれないですね。委員の意見にもあったように、返礼品の多少ではなく、如何に寄附を集めるかといった論点を付加する必要がありますね。

・委員

1（広報あんじょう発行事業）はわかりやすいと思います。数値的なデータも

がありますし、幅広い議論ができると思います。

・委員

1（広報あんじょう発行事業）は若い世代（広報をみない人たち）への市の情報発信や、高齢世代へのわかりやすい情報提供など世代にわたった課題がありますので、議論しやすいテーマだと思います。数字も出しやすいですし。

・委員長

広報はわかりやすいので、模擬事業としてよろしいでしょうか。

・事務局

特に意見はございません。

・委員長

模擬は1（広報あんじょう発行事業）、本番は2（ふるさと納税制度）、4（食育推進事業）、5（消費相談事業）とさせていただきます。

今日の審議は以上でよろしいですか。

・委員

評価シート（資料4）について、意見があります。目的、事業費のインプット、実施内容にアウトプット（年間500時間）、その下に、アウトカム指標（直接事業に参加した件数1101件）が示してあるように見えますが、このシートでは、市がどのような目的をもって、何をやって、そのことによりどういう結果が得られたという一連の流れが見えにくいと思います。議論がコンフューズすることも考えられるので、アウトプット指標とアウトカム指標とは別枠にするなどしてわかりやすくしてほしいです。評価しづらい面は十分承知していますが、このシートを使用するのであれば、所管課にはアウトカム指標（成果指標）を意識的に示してほしいです。

今年度、対応できるかわかりませんが、アウトプット指標とアウトカム指標を明記していただけると、よりよいシートになると思いますので、ご検討のほどよろしく願いいたします。

・委員長

重要なお指摘ですね。何をもちこの政策の成果指標とするのかは目的に比例すると思いますが、何を目的として、こういう成果が見込める（成果指標）という部分は今後作成される資料やプレゼンテーションに盛り込んでいただきたいと思えます。

本日、選定をさせていただいた事業については、今後こうした評価シートが上

がってきますので、またそのときに委員の皆様にはご指摘をいただきたいと思
います。

(議題終了)

8 その他